

報道関係者 各位

2023年3月17日
公益財団法人日本デザイン振興会

2023年度グッドデザイン・ニューホープ賞 応募受け付け開始 学生・若手のデザイン活動を支援、応募期間は7月18日（火）まで

公益財団法人日本デザイン振興会（東京都港区、会長：内藤廣）は、「2023年度グッドデザイン・ニューホープ賞」（GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD 2023）の応募受け付けを3月17日（金）から開始します。

グッドデザイン・ニューホープ賞は、デザイナー、クリエイターを目指す各種専修専門学校・大学・大学院の学生や、卒業・修了後間もない若手クリエイターを対象としたデザイン賞です。作品・プロジェクト・研究を審査・顕彰することにより、新たなクリエイティブ人材の発掘とキャリアアップを支援し、デザインを通じた新たな産業、および文化の発展に寄与することを目的とし、2022年度からスタートしました。初年度である2022年は日本全国から414件の応募が寄せられ、審査委員会による審査を経て最優秀賞1件を含む91件が受賞しました。

グッドデザイン・ニューホープ賞の特徴

提案や研究での応募が可能

学生や卒業・修了直後の者を対象とするため、商品化や実現化を応募条件とせず、提案や構想、研究として制作されたデザインでの応募が可能です。

幅広い領域のデザインが応募対象

社会を構成する「物」「場」「情報」「仕組み」の四つに応募カテゴリーを設定し応募を受け付けます。それぞれの領域の審査は、実業の一線で活躍するデザイナー、クリエイターが担当します。

応募テーマを指定しない

特定のテーマをとらず、応募者が自らテーマを考えて取り組んだデザインを応募できるほか、卒業制作やゼミ課題などで制作されたデザインを応募することができます。

受賞後の活動支援プログラムの提供

企業でのインターンシップやデザイナーによるワークショップへの参加機会など、独自のプログラムを複数回提供しキャリア支援を行います。



応募受付期間：

2023年3月17日（金）～7月18日（火）13:00まで

応募資格：

応募者は、個人またはグループとし、2023年4月1日現在で個人またはグループの全員が日本国内の各種専修専門学校・大学・大学院に在籍しているか、2022年6月1日以降に卒業・修了した方。いずれかに該当すれば年齢の制限はなし。

なお複数人により共同で創作等を行ったグループによる作品等を応募する場合は、グループを構成する全員の同意が必要。

応募対象：

応募者が独自に創作した、2018年4月以降に制作された作品で、2023年10月24日の受賞発表日に公表できるもの。

各種権利の侵害がなく、関係教育機関や企業などとの間で応募に関して支障がないことを確認できたもの。

※同一年度に同一の応募者が応募できる点数は1点まで。

応募カテゴリー：

1. 物のデザイン（製品など）
2. 場のデザイン（建築、施設、環境など）
3. 情報のデザイン（コンテンツ、プログラム、メディアなど）
4. 仕組みのデザイン（サービス、システム、取り組みなど）

応募方法：

公式ウェブサイトより各種情報を登録

<https://newhope.g-mark.org/award/>

出品料：

無料

賞と賞金：

最優秀賞（1点）／賞金30万円

優秀賞（7点）／賞金5万円

入選（点数制限なし）

※最優秀賞・優秀賞には副賞として、1受賞作品につき記念品と表彰状を贈呈。

※各賞については「該当なし」となる場合があります。

※受賞発表後に受賞者が参加できる活動支援プログラムを実施します。

スケジュール：

一次審査会 2023年8月25日（金）

受賞発表 2023年10月24日（火）

最終審査会 2023年11月18日（土）*公開形式で開催予定



2022年度 審査会風景



2022年度 最終審査会

審査委員：

審査委員長：齋藤精一（クリエイティブディレクター／パノラマティクス 主宰）

審査副委員長：永山祐子（建築家／永山祐子建築設計 取締役）

1. 物のデザイン：三宅一成（デザイナー／ミヤケデザイン 代表）、丸山幸伸（株式会社日立製作所 研究開発グループ Head of Design・立教大学大学院ビジネスデザイン研究科客員教授）、小嶋紗代子（デザイナー／株式会社良品計画）
2. 場のデザイン：千葉学（建築家／東京大学大学院 教授）、西川日満里（建築家／ツバメアーキテクト）
3. 情報のデザイン：井上裕太（プロジェクトマネージャー／KESIKI INC. パートナー・Whatever ディレクター）、八木泉（ビジネスプロデューサー／ソニー株式会社）
4. 仕組みのデザイン：佐々木千穂（ユーザーエクスペリエンスデザイナー／株式会社インフィールドデザイン 代表）、吉田田タカシ（教育者・クリエイティブディレクター／アトリエe.f.t. 代表）

グッドデザイン・ニューホープ賞 目的と背景

いま、デザインはさまざまな面で大きく変化し複雑さを増す社会において、社会課題の解決手法として活用されたり、物事を可視化する力や人を軸に物事を組み立てるヒューマン・センタードのプロセスが、特にビジネスの領域で注目されるようになってきました。そのため、従来は「造形」や「美術」として捉えられることが一般的であったデザインを、より総合的な見地から理解するとともに、社会の幅広い領域でデザインを実践する動きも顕著になっています。

このようにデザインのあり方が変動している状況下で、デザインを学び将来のデザインを担う立場にある世代を支援していくことの必要性が、近年になって各方面から唱えられるようになりました。当会では長年にわたってグッドデザイン賞を通して社会へのデザインの浸透と啓発を担ってきた経験を踏まえ、新しい世代に特化したデザインの評価と振興のためのプログラムを設けることが、デザインの可能性をさらに広げるとともに、社会をよりよくしていく新たな力を生み出すことにつながると考え、グッドデザイン・ニューホープ賞を実施します。